

景観シミュレーション自己評価書

シミュレーションの距離帯	評価基準（考え方）	評価対象	基準のチェック	評価基準に対するコメント
遠景	<p>●背景との関係が読み取れる距離</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>位置・規模を評価</p> <p>目安 1)1,000m程度 2)最大寸法 20 倍</p> <p>例) 高さ 50mの場合 距離 1,000m 程度</p>	①位置	○	敷地中央に建築物を配置することで周囲の建物との離隔距離をとるよう努めた。
		②規模	○	分棟型の計画とすることで、建物のスケールが小さく見えるよう努めた。
		③カライン	○	建物高さを 12m 以下とし、周辺の眺望を妨げないよう努めた。
中景	<p>●建物の周辺の状況がわかる距離</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>主要部位を評価</p> <p>目安 100～500m程度</p>	① 基調色	○	外壁上部は N9、下部は自然系素材に類する材料を使用するなど、周辺地域・景観と調和する外壁の色彩・意匠とした。
		②おおまかな形状	○	周辺地域と合わせ、切り妻屋根とした。
		③主要な付属物 〔屋上設備 屋上階段 ベランダ等〕	○	屋上設備は無し。 ベランダは外壁と同色とした。
		④特殊な材料 (金属やミラなど)	○	屋根は金属板を使用するが、光沢性を抑え、周辺景観との調和に配慮した。
近景	<p>●隣接する建物との関係や通りの雰囲気わかる距離</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ディテールを評価</p> <p>(目安 50m程度)</p>	①壁面意匠 〔ファザード意匠 側面の仕上げ 壁面設備〕	○	外観を周辺地域の蔵風の意匠に揃えることで調和を図った。
		②看板類	○	看板は必要最小限とする。
		③アクセントカラー	○	アクセントカラーは無し。
		④低層部の雰囲気	○	外壁下部を黒系（濃茶）、上部を白系とすることで、周辺景観と違和感がない。
		⑤敷地利用 (緑化など)	○	敷地周囲には緑地を確保し、周辺環境へ配慮した。
地点	<p>●周辺の公共空間（前面道路の歩道など）との関係がわかる距離</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>道路際の造作を評価</p> <p>(目安 10m前後)</p>	①低層部のディテール・意匠・材料・構造	○	前面道路側の敷地際には、出入りスペース以外に植栽を設けることで、建物と道路の緩衝帯となるように計画した。
		②敷地のデザイン 〔敷地の舗装 緑化状況 駐車場の見えなど〕	○	前面道路沿いには瓦塀を設け、植栽帯と一帯とすることで、歩行者に圧迫感を与えないように努めた。